

会 議 録

1 会議名

第13回上越市クリーンセンター生活環境保全協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

ア 令和3年度上越市クリーンセンターの運営状況について

イ 令和3年度環境測定結果について

(2) 意見書提出（公開）

3 開催日時

令和5年2月28日（火）

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面で開催

4 開催場所

—

5 傍聴人の数

—

6 出席した者（敬称略）

・委員：山縣 耕太郎、清水 忠明、白木 朝雄、卷内 勉、西條 榮市、
中島 功、丸山 智恵子、濱田 雅巳、武田 徹

7 発言の内容

【議題1】

（清水委員）

○1号炉が5月にごく短時間停止したが、すぐに復旧したので運営上は問題なかった。

○しかし、定期検査以外の予定されていない停止があることは望ましくないので、原因を明らかにするとともに、対策を取られたい。

○なお、この停止がごみそのもの（例えば分別不適切）に由来する問題であるならば、市民に対して適切な分別をするよう市役所を通じて周知されたい。

○その他の排ガス成分については、適切に管理されていると思われる。

（事務局）

○5月の1号炉停止は、振動が上昇した2次送風機の羽根車の点検清掃を実施したことによるものです。羽根車に付着したほこりを除去したのち、運転を再開しています。

○引き続き、日常点検における異常の早期発見に努めてまいります。

○本件は、ごみ由来の問題ではありませんでしたが、不適物の搬入によって運転停止に至るケースも十分に考えられるため、市、運営事業者が連携し、分別への協力などの周知に努めてまいります。

(清水委員)

○排ガス中水銀がやや高い時があったが、水銀はごみに由来するものであるため、ごみへの水銀含有物(例えば水銀体温計、水銀血圧計、古い水銀電池等)の混入を防ぐことが第一である。

○これには、市民の協力が欠かせない。市役所から市民へ分別徹底への協力の依頼をされたい。

(事務局)

○ご指摘のとおり、水銀含有物の混入防止は、非常に重要であると考えています。

○市民の皆さんには、分別ガイドなどを通じて周知していくほか、収集運搬業許可業者へも、定期で開催している会議の場で回収時の確認など、適正処理への協力を呼び掛けたいと思います。

(濱田委員)

○資料 1P9 10月の発電効率が大きく下がった理由を確認されたい。

(事務局)

○10月は、例年定期修繕の期間としており、この期間に蒸気タービンを停止し、機能点検などを実施しています。

○蒸気タービンの起動や停止時は発電できないことから、発電効率が低下したものです。

(武田委員)

○資料 1P5 「ごみ焼却処理量」のグラフについて、単位(t/日)と横軸の時間を明記すること。

(事務局)

○「ごみ焼却処理量」のグラフに単位(t/日)と時期(横軸)を追記します。

【議題2】

(濱田委員)

○P18、19 一酸化炭素濃度が一定期間、一定値となる理由を確認されたい。

(事務局)

○一酸化炭素濃度を管理するため、ごみ質と燃焼状態が安定するよう、ごみの攪拌や安

定燃焼管理に努めています。

○グラフは、月報データを元に作成しており値が1日の平均値となります。

○そのため、ごみ質と燃焼状態が安定している場合、一酸化炭素濃度は一定期間、一定値となります。

(濱田委員)

○P26、27 塩化水素濃度が一定期間、一定値となる理由を確認されたい。

(事務局)

○塩化水素濃度を管理するため、薬剤吹き込み装置等の機能が備え付けられています。

○グラフは、月報データを元に作成しており値が1日の平均値となります。

○そのため、燃焼時に生じる塩化水素濃度が制御範囲内の近似値である場合、塩化水素濃度は一定の値となります。

【その他】

(清水委員)

○灰の熱しゃく減量がやや多い月もあったが、その月は灰分が少なく、相対的に減量部分が多く見えたものと思われ、極端な不具合があったとは考えにくい。

(事務局)

○湿灰での熱しゃく減量の測定は、ご指摘のとおり灰の成分によって高い数値が出る場合があります。

○分析結果から、焼却灰に含まれる水和物が熱しゃく減量試験の際に加えられる熱により分解し、水蒸気として蒸発することが主要因と考えています。

○そのため、湿灰だけではなく乾灰でも熱しゃく減量を測定し、水和物の影響も考慮して焼却灰の性状を確認しています。

(清水委員)

○発熱量の計算は、おそらく環整第95号通知別紙2-Iによるものと思われるが、これはかなり古いごみ質に対するものであり、今のごみとはかなり異なることに注意されたい。

○全国都市清掃会議の推算式の方がまだ実測に近い値を出すようである。

(事務局)

○ご意見ありがとうございます。

○今後の参考とさせていただきます。

(清水委員)

○資料 4-1 で R3/11 の種類組成で、ビニール類と木竹の割合の数字が入れ違っていませんか。

○ほかの月はビニールの方が木竹より多いのと、この組成で計算した発熱量が実測値とのずれが大きいですが、数字を入れ違えるとおおむね計算値と同じになる。

(事務局)

○ご指摘を受け、分析機関に問い合わせした結果、組成割合は、計量証明書と整合する数字であることを確認しています。

○11 月は、枝木の直接持ち込み量が多かったことから、家庭収集においても木質系の割合が多かったものと推測しています。

(濱田委員)

○資料 4-1、4-2 ごみ質の真発熱量の「計算値」と「実測値」の違いを確認されたい。

○また、DCS データとの比較も確認されたい。

(事務局)

○「計算値」は、環整第 95 号による三成分式により算出しています。(可燃分と水分の比率のみで簡易的に真発熱量を推算)

○「実測値」は、ごみ質分析試料をボンブ熱量計で実際に燃焼したデータを元に換算した値です。

○DCS との比較については、1、2 号炉の平均値データを元に毎月比較を行っています。

(巻内委員)

○一般搬入者の誘導をもっと機敏に出来たら、周りの車両も安心できると思う。

(事務局)

○近年、一般搬入者の台数が多く、クリーンセンター側でも効率よく行う方法を日々、試行錯誤しているところです。

○今後の誘導方法についても、機敏に対応できるよう検討してまいります。

(武田委員)

○来年度、可能であれば施設見学を希望する。

(事務局)

○次回の協議会開催時に施設見学を検討します。

○また、協議会とは別に施設見学していただくことも可能ですので、ご希望があればお声がけください。

8 問合せ先

自治・市民環境部生活環境課ごみ焼却係 TEL : 025-526-5111 (内線 1020-4122)
E-mail : seikatsu@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。